

今週の株式相場見通し

* 日経平均 36,000~39,500 円

TOPIX 2,550~2,800

* 期待材料 生成 AI ブームの広がり ハイテク関連企業の好決算 自社株買いの再開

* 不安材料 米インフレ加速 米金利の上昇 中東の地政学リスク 円安による個人消費減速

【日本株は戻りを試す展開を期待】 4月後半~先週までの日本株は、決算シーズンに伴う米国株の不安定な動きに振り回される展開となったが、米国の企業決算は一巡しており、今後は4月の下落分を取り戻す展開を期待したい。米国の決算は、S&P500採用企業で決算を発表した447社のうち、約8割が事前の利益予想(ブルームバーグ集計)を上回っており、増益率は5.4%と概ね良好な内容となった。特に、AI需要が伸びたマイクロソフトやアマゾン、アルファベット、AIスマホ向け半導体が伸びたクアルコムなどハイテク企業の業績が好調となり、米国株は4月の下落分をほぼ埋める勢いになっている。大手クラウド企業はAIへの投資を増額し、AI関連事業の見通しに自信を持っていることが推察され、日本企業でもディスコや日立製作所、富士電機などAIやデータセンター関連投資拡大の恩恵を受ける企業で好決算の発表が目立っており、日経平均株価は米国株と同様に戻りを試す展開になることが期待される。

【今週は米インフレ動向に注目】 今週の予定では15日の米消費者物価指数、16日の米半導体製造装置大手アプライド・マテリアルズ(AMAT)の2-4月決算に注目したい。5月1日に発表された米ISM製造業景況指数、3日に発表された米ISM非製造業景況指数は、ともに米国経済の減速とインフレ圧力の高まりを示唆する結果になった。今週発表の消費者物価指数では物価上昇ペースが鈍化すると見られているが、事前予想に反しインフレ加速が示されることも警戒され、結果次第で上下に相場が変動する展開が見込まれる。AMATの決算ではAI関連投資の拡大を受けて、AI向けGPUや高速DRAM、2ナノ半導体で導入される新型トランジスタなどに強気の見通しが示されれば、東京エレクトロンやKOKUSAI、ディスコ、TOWA、日本マイクロニクスなど半導体関連の追い風になるものと思われる。(5月9日現在、松本 直志)

今週の予定

	国内	海外
5/13 (月)	4月マネーストック(8:50) 決算: プリチストーン(5108)、スズキ(7269)、ソフトバンクG(9984)など	[マレーシア] ASEAN グリーン水素会議 2024 (~14日) [オランダ] 世界水素サミット (~15日)
14 (火)	4月国内企業物価指数(8:50) 決算: ソニーG(6758)など	[独] 5月 ZEW 景気期待指数(18:00) [米] 4月生産者物価指数(21:30)
15 (水)	MSCI ジャパン・スタンダード指数の銘柄入れ替え発表 4月訪日外客数(16:15) 決算: メガバンク3社など	[インドネシア] EV Indonesia (~17日) [欧] 1-3月期 GDP 改定値(18:00) [米] 4月消費者物価指数(21:30) [米] 4月小売売上高(21:30)
16 (木)	1-3月期 GDP 速報値(8:50) 決算: 大同信号(6743)など 時事世論調査発表	[米] 4月住宅着工件数(21:30) [米] 4月鉱工業生産(22:15) 決算: アプライド・マテリアルズ
17 (金)	ベネッセHD 上場廃止 決算: うかい(7621)など	[中] 4月鉱工業生産(11:00) [中] 4月小売売上高(11:00)
18 (土)	将棋・名人戦第4局(~19日)	国際博物館の日
19 (日)	競馬・オークス	[ドミニカ共和国] 大統領選挙

出所はロイター、ブルームバーグ、新聞各紙等より、時刻は日本時間(予定)

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願ひ致します。

今週の参考銘柄 **アイシン (7259)** 東証プライム



	23年3月期 (百万円)	前年比	24年3月期 (百万円)	前年比	25年3月期(予) (百万円)	前年比	株価(5/9) 業種	5,650 円 輸送用機器
売上収益	4,402,823	12.4%	4,909,557	11.5%	4,920,000	0.2%	時価総額	16,649 億円
営業利益	57,942	-68.2%	143,396	147.5%	220,000	53.4%	PER(予想)	11.70 倍
税引前利益	73,741	-66.5%	149,877	103.2%	225,000	50.1%	PBR(実績)	0.71 倍
当期純利益	37,670	-73.5%	90,813	141.1%	130,000	43.2%	ROE(実績)	4.67 %
EPS(円)	139.77		336.93		482.31		配当利回り(予想)	3.18 %
配当金(円)	170		170		180		担当	多功 毅

出所: 業績に関する数値は決算短信より

【トヨタ系の自動車部品大手】 トヨタ系の大手自動車部品メーカー。自動変速機 (AT) で世界首位。21年4月1日にアイシン精機とグループ企業のアイシン・エイ・ダブリュが経営統合し、新会社アイシンとして発足。24年3月期における、得意先別売上高構成比は、トヨタグループ向け65.5%、トヨタグループ以外向け31.7%、その他2.8%となっており、日系自動車メーカーに加えて、ステランティス (PSA、フィアット・クライスラーの合併で誕生) やVW&アウディグループ向けにも納入している。製品別売上高構成比は、パワートレイン関連55.5%、走行安全関連20.1%、車体関連19.1%、CSS関連他2.5%、その他2.7%となっている。

【品質関連コストの一巡で新年度業績の拡大を想定】 24年3月期通期決算は前年同期比11.5%増収、営業利益は2.5倍での着地となった。3Q (10-12月) で計上した品質関連費用の影響を受けたが、日米を中心とした車両生産の回復効果や電動ユニット販売台数の増加、円安効果が増益に寄与した。今期は0.2%増収、53.4%営業増益を計画。トヨタのグループ企業で相次いだ品質不正問題を受けて、トヨタが納期より品質及び生産・開発体制の見直しを優先させ、生産が抑制される可能性を踏まえてパワートレインユニット販売台数前提を3%減としたうえで、電動ユニットの拡販、品質関連費用のはく落、構造改革効果を想定している。

【HEVとEV部品の成長に期待】 世界的にEV人気が鈍化すると共に、HEV (ハイブリッド車)、PHEV (プラグインハイブリッド車) の人気が高まっている。決算説明会では、HEV向けトランスミッションは今年度中に新たに2社が追加され、来期にもう1社追加決定とした。またHEV向けトランスミッションは以前より内製化率が高まっており、既にAT並みの収益性まで向上しており、今後はATの収益性を上回っていくともコメントした。短期的にはHEV向けトランスミッションの拡大、中長期的にはEVに向けて開発を加速させているE-Axle、電動ポンプ、電動ブレーキ、回生協調ブレーキなどの成長に期待したい。

説明会より

銘柄 (コード) 市場 株価(5/9)	コメント
第一三共 (4568) 東証プライム 5,198円	24年3月期通期決算は前年同期比25.3%増収、75.5%営業増益。がん治療剤「エンハーツ」が全地域で伸長したことや、静脈血栓塞栓症治療剤「リクシアナ」が国内やアジアで成長、円安も寄与した。今期は9.3%増収、8.7%営業増益の計画。「エンハーツ」の売上は28.4%増を見込む。また、中期経営計画の25年度目標のうち、売上を2兆円から2兆1,000億円に、DOEを8%以上から8.5%以上に引き上げた。(志田 憲太郎)
DMG 森精機 (6141) 東証プライム 4,750円	24年12月期1Q(1-3月)決算は前年同期比7.8%増収、10.9%営業増益。1Q受注は直前4Q(10-12月)比163億円増加。1Qの受注が好調に推移したことや為替前提を円安方向に修正したことを踏まえて通期計画を2.0%増収、5.7%営業増益に上方修正。顧客の工程集約につながり、生産性の改善に寄与する5軸加工機や複合加工機などの高付加価値機の拡販が進み、受注単価の上昇が続いている。(多功 毅)
ディスコ (6146) 東証プライム 50,960円	半導体ウエハの切断・研削装置や替え刃などの消耗品を展開。24年3月期4Q(1-3月)決算は前年同期比32.0%増収、47.4%営業増益となり、四半期で初めて売上1,000億円を突破。パワー半導体、生成AI関連の出荷が本格化し、出荷額は約950億円となり過去最高を更新。顧客設備の稼働率が高く、消耗品売上も過去最高となった。25年3月期1Q(4-6月)もパワー半導体、生成AI関連の需要が強く、出荷額は935億円と高水準が続く見込み。(松本 直志)
富士電機 (6504) 東証プライム 9,827円	24年3月期通期決算は前年同期比9.3%増収、19.3%営業増益となり、売上、営業利益ともに過去最高を更新。データセンター、半導体工場向け施設・電源システム、インバータなどFA製品、空調設備工事、コンビニ向け店舗設備機器、ハイブリッド車向けパワー半導体など幅広い分野が拡大した。今期は前年同期比1.0%増収、2.8%営業増益計画。データセンターや半導体工場、再エネ関連の設備投資需要が継続する見込み。パワー半導体もハイブリッド車比率が高いため、EV市場失速の影響はなく増収増益計画。(松本 直志)
デンソー (6902) 東証プライム 2,623.5円	24年3月期通期決算は前年同期比11.6%増収、10.7%営業減益。3Q(10-12月)に計上した品質関連コストによって減益決算ではあるが、一過性の費用を除くベースでは日米における顧客の自動車販売の増加及び、強みの電動化関連製品や注力する安全関連製品の拡販による増収効果、合理化、操業度効果によって好調に推移。今期は2.9%増収、87.6%営業増益を計画。品質費用のはく落、合理化・対応力強化や操業度効果を見込んでいる。(多功 毅)
川崎汽船 (9107) 東証プライム 2,158.0円	24年3月期通期決算は前年同期比2.1%増収、7.5%営業増益、80.3%経常減益。通期を通して中国の需要回復の遅れなどでドライバルクの市況が軟調だったことに加え、パナマ運河の渾水影響により稼働率が押し下げられたが、自動車船が貢献し営業増益。また、コンテナ船は3Q(10-12月)の赤字から4Q(1-3月)は黒字転換した。中東情勢の影響により迂回が増加し需給が改善した。今期は1.8%増収、9.7%営業増益、0.6%経常減益の計画。コンテナ船は前期並み、ドライバルクの回復と自動車船の堅調を見込む。(志田 憲太郎)

いつもあなたのそばで 頼れる金融機関です

やまわ

山和証券店舗網

本店営業部	(03) 3668-5412	〒103-0026	中央区日本橋兜町 1-8
金町支店	(03) 3600-6681	〒125-0041	葛飾区東金町 1-22-9
高円寺支店	(03) 3311-1171	〒166-0003	杉並区高円寺南 3-58-25
大岡山支店	(03) 5754-5523	〒145-0062	大田区北千束 3-28-1 パークホームズ大岡山ラヴィアンコート 1F
巢鴨支店	(03) 3918-6311	〒170-0002	豊島区巢鴨 3-33-2
上板橋支店	(03) 3935-0311	〒174-0071	板橋区常盤台 4-22-12
深川支店	(03) 5600-7891	〒135-0005	江東区高橋 11-1
茂原支店	(0475) 25-1151	〒297-0023	茂原市千代田町 1-6 茂原サンヴェルプラザ 1F



○金融商品取引法に基づく表示事項

◇商号：山和証券株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第190号
加入協会：日本証券業協会

◇ご投資にかかる手数料の概要およびリスクについて

- ・国内上場株式等を購入する場合は、約定代金に対して最大1.1990% (ただし約定代金230,000円以下の場合は最大2,750円)の委託手数料をいただきます。
- ・国内上場株式等は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行会社の信用状況の悪化等により投資元本を割り込むおそれがあります。商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので当該商品の契約締結前交付書面をよくお読みください。

○山和証券免責事項

- ・本アナリストレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断と責任でおねがいします。
- ・本アナリストレポートの全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

発行 山和証券調査室